

札幌新まちづくり計画市民会議  
第6回全体会議概要録

日 時 平成16年8月25日(水) 18:00~20:45

場 所 ホテルポールスター札幌 2階 セレナード

出席者 内田和男 座長 ・ 杉岡直人 副座長 ・ 高田悦子 副座長  
荒 紀男 委員 ・ 飯塚優子 委員 ・ 岩田美香 委員 ・ 白井 博 委員  
大坂 紫 委員 ・ 太田幸雄 委員 ・ 大沼義彦 委員 ・ 黒田澄雄 委員  
工藤仁美 委員 ・ 柴川明子 委員 ・ 杉森洋子 委員 ・ 田村丈生 委員  
燕 信子 委員 ・ 中島 洋 委員 ・ 平本健太 委員  
(欠席: ・ 阿部一司 委員 ・ 伊藤淑子 委員 ・ 小林英嗣 委員  
・ 中井和子 委員 ・ 林 雅之 委員)

次 第

- 1 開 会
- 2 議 事  
(1) 札幌新まちづくり計画 重点事業編(案)について  
(2) その他
- 3 閉 会

議事の概要

はじめに事務局から重点事業編(案)(資料1、資料2)の説明があり、各委員から質疑がなされ、また、感想や意見が述べられました。

最後に、事務局から資料3により今後のスケジュールについての説明の後、第6回全体会議が終了いたしました。

## 各委員による感想と質疑応答

### 岩田委員

- ・ 5つの視点、4つの施策の展開方針、5つの基本目標など、わかりにくい印象がある。
- ・ 事業を評価する際には60個ある成果指標だけを見ることになるのだろうか。

### 太田委員

Q 札幌駅～大通間の地下通路は何年間の事業なのか。

A 地下歩行空間は、今年予備設計、17年度実施設計、準備工事、18年度から本工事、21年度の供用開始を目指して計画を進めているところである。（事務局）

Q 違法駐輪対策、駐輪場整備は具体的にはどうされるのか。

A 計画期間内に3カ所の駐輪場整備を予定しており、札幌駅周辺では、北5西5街区に整備（新設）を予定している。（事務局）

Q 都心部では特に冬に渋滞が起きる。交通の流れの制御を含めた話も入れてほしい。

A 「都心交通計画推進事業」で、荷捌きやモール化など、人と環境を重視した都心交通の社会実験に取り組む予定である。（事務局）

### 中島委員

Q まちづくりセンターと子育て支援センターなどは別々につくるのか。高齢者から子どもまで一緒の形の方がいいと考えるが。

A 子育て支援センターについては、基本的に保育所を併設していこうという考えであり、まちづくりセンターと子育て支援センターを一緒の形で整備するという計画にはなっていない。（事務局）

Q 「舞台芸術創作活動支援事業」とあるが「舞台芸術」に限定するのか。市民のあらゆる表現活動の拠点という形で広げてほしい。

A 市民会議の議論も踏まえて、舞台芸術を中心とした事業を新たに計画化している。ただ、ご意見は参考にさせていただきたい。（事務局）

- ・ 新しい交通機関、省庁の施策についてなど、新しい情報を得る努力をしてほしい。

### 高田副座長

- ・ 町内会活動は連絡所（まちづくりセンター）だけにまかせておくのではなく、もっと地域に根ざした活動でなければならない。
- ・ 今、重点事業編（案）は実施の段階に至ったというところであり、私たち市民は実践という立場になるのではないかと思う。そのときには地域の人たちの意識改革ということになる。

## 田村委員

- Q コールセンターは、長期雇用に結びつかず、必ずしもうまくいっていると思えない。本当に雇用創出効果が期待できるのか。ニュービジネス、コールセンターの促進に限らない方がいいのではないか。本当に雇用効果を上げているのか、安心して働ける環境なのか検証する必要がある。
- A コールセンターに限らずいろんな形の就労の場を考えていくことが必要であるが、コールセンターは、平成11年度以降、3,000人以上の就労の場となっているというデータがある。社会保険などに加入しているものと聞いているが、労働条件を把握しながら誘致を進めていく必要があると確かに思う。(事務局)
- Q 金融機関のプロパー融資を活用できるのであれば、元気基金に入れる必要はない。元気基金については長期的な視点で事業者の経営内容を安定させるために使うということでないといけない。
- A 市の損失補てんにより、金融機関の融資審査をある程度柔軟にさせていただくという狙いがある。(事務局)

## 柴川委員

- ・ 縦割りではなく横の連携の事例として、最近、ちょボラの方に大変元気付けられた。

## 工藤委員

- Q 本編にはあるが概要版にはない事業は重点事業ではないのか。
- A 概要版に載っていない事業も同じように重点事業として取り組んでいく。(事務局)
- ・ 田村委員が言われたように、雇用創出は良質な雇用でなければだめである。コールセンターについては労働実態を検証してほしい。
- Q 札幌市立高校4校の定時制再編は、新設ということになるのか。
- A 4つある定時制を1つにまとめて大通小学校の跡地に、跡施設も一部利用して整備をするということである。「新しいタイプの定時制高校」として、多様なカリキュラムを用意、午前・午後・夜間の3部制と単位制の導入、少人数指導、習熟度別学習の導入、体験的学習の充実、カウンセリング体制の充実、科目履修生の受け入れ、入学者選抜方式の改善などこれまでにない取り組みについて検討している。(事務局)

## 黒田委員

- Q 地下鉄エレベーターを4駅に新設となっているが、北12条駅は含まれているのか。北大病院が近いので、最優先に整備してほしい。

- A 4 駅に北 1 2 条駅は含まれていない。ただし、諸条件が整えば計画期間の中で整備に着手する可能性はある。(事務局)
- ・ ただ、逆に未設置の地下鉄駅にはエレベーターは設置しないほうがいいとも考える。設備ではなく、札幌市民全員がそれに対応するようになれば、素晴らしい街になると思う。

#### 飯塚委員

- Q 「市民自治推進事業」について具体的なプランはあるのか。
- A 元気ビジョンを実現する 3 つのプランのうち「市民自治推進プラン」がこれに相当する事業になっていく。市民自治を進める市民会議が中心となって市民自治の意識を広げていき、その成果として自治基本条例をつくるという流れである。(事務局)

#### 白井委員

- ・ 少子化対策、子育てに関する相談・支援拠点は集中化するよりも、身近な地域に分散化してつくった方がよい。
- ・ 不登校対策としては、スクールカウンセラーとともに、学校と外部の機関を調整するソーシャルケースワーカーのような人がもっと問題に入っていきことも大事だと思う。
- ・ 学校の問題を考えるときには、アウトソーシングではなく、教師自身が問題に取り組み解決する力をつけることがまず大事である。現場教師の研修の充実ということを重点的に考えるべき。

#### 大坂委員

- Q まちづくりセンターの連携、情報交流の機能についてもう少し詳しく知りたい。
- A まちづくりセンターにおける「まちづくり協議会の設立および活動促進のための支援事業」については、今年度は各センターで検討を行い、来年度以降、具体的に取り組んでいく予定である。(事務局)
- Q 区民センター利用などの規制緩和プロジェクトと重点事業の進捗がどういう関係にあるのか説明してほしい。
- A 「『施策の展開方針』に沿った事業の取り組み」にある「適切な規制と緩和」に位置づけており、現在市内のプロジェクトで検討を進めているところである。(事務局)

#### 内田座長

- ・ まちづくりセンターについては、実は何をどうしたいのかという主体が存在しない。それでうまくいっていないということがある。
- ・ 市は情報を提供し、市民は意見を言ってお互いに作り上げていくという形にならないといけない。そうならないと、まちづくりセンターはうまくいかないだろう。
- ・ 上記の仕組みをつくるのがむしろ市の仕事だと思う。
- ・ (他の事業でも)市は隠さずに情報提供をし、知恵を借りたいと市民に正直に言うということがあればよい。

## 杉森委員

- Q 「舞台芸術創作支援事業」の活動拠点を確保する場合の賃借料補助は、公演に対する補助なのか、それとも場所を確保する場合の家賃補助なのか。
- A 活動拠点を借りる家賃を一定期間補助するものである。（事務局）
- Q 「地域に根ざした芸術文化を継続して育成する仕組み」とあるが伝統文化だけを指しているのか。「芸術文化を継続して育成できるしくみの検討」とあるが「しくみ」のイメージはあるのか。
- A 必ずしも伝統芸能に限らない。具体的なものについては今後検討していく。「しくみ」については、これから詰めていく。（事務局）

## 燕委員

- ・ 提言では縦割りではなく連携した地域に密着した相談体制が必要だとうたったが、ビジョン編、重点事業編と進むうちになくなってしまった。
- Q 提言では「障がい者等への情報提供・相談支援機能の強化」とうたったのだが、相談支援機能を持つ施設の整備が少ない。また、グループホーム数についてはどうか。
- A 障がい者に対する相談支援機能として3事業、合計9カ所の施設がある。また、3事業間の連絡会議を開き、それぞれの連携について検討している。グループホーム数は3年間で合計80カ所増やし、地域生活のための中核的な施策として進めていきたいと考えている。（事務局）
- Q 障がい者の「施設から地域へ」という流れについてはどうか。
- A グループホームを含めた通所施設を増やし、施設から地域へという取り組みを進めていきたいと考えている。（事務局）
- Q 障がい者提言サポーターの提言はどうか。
- A 障がい者であるサポーターは12名いるが、それだけではなく広くご意見をうかがえるように取り組んできた。現在はご意見をもとに政策提言書をまとめる作業に入っており、来月中には市長に提出していただく。（事務局）
- Q 全身性重度障がい者の介護体制の確立として24時間化を進めるということについてはどうか。
- A 最重度の方たちを優先的に24時間介護体制化するという取り扱いである。（事務局）

## 平本委員

- ・ 内田座長、飯塚委員が提案された、部局横断的なモデル事業については大賛成である。
- Q 多くの事業が今回の案に含まれているが、札幌市側にとっての自信作と思うものがあるれば教えていただきたい。市民会議の意見と合えばいいが、合わないならその原因を

考えることが計画を考えるうえでプラスになると思う。

- A 市民委員からいただいた提言で事業化のめどが立つものを取り入れさせていただいたというのが目玉と捉えられる。また、元気基金、新しいタイプの定時制高校新設についても目玉的なものになると考える。（事務局）

#### 杉岡副座長

- ・ 市民生活に関する問題は市民が先駆的に取り組むことから改善されていくと思う。
- ・ 札幌市は非常に細かくセクションに分かれてしまっている。政府が補助金を一般財源化してきているということもあるので、市民の生活を組み立てる上で必要な課のあり方を一度考える必要があるのではないかと。
- ・ 先ほど来、指摘があるモデル事業を一般化させるような意図的な取り組みが急がれるのではないかと。事業としては、成果が明確になるようなものに意識的に焦点を絞る必要があるのではないかと。

#### 荒委員

- Q 札幌市が誇る財産である大通公園の景観を守る取り組みを早急に進めるべき。
- A 18年を目途に用途地域の見直しを進める予定であり、その中で検討していきたい。（事務局）

#### 大沼委員

- ・ まちづくりセンターが抽象的なままで具体性が明確にならなかったことが残念である。
- ・ 「スクラップアンドビルド」の「スクラップ」のほうに重点があり理念の「ビルド」ができあがっていない状態にあるのがまちづくりセンターの現状だと思う。（内田座長）

#### まとめ（内田座長）

- ・ 委員の多くが新まちづくり計画がわかりにくいと言う要因の一つが、縦割り行政である。セクションごとに細かく細分化されてしまって、全体のイメージが見えなくなってしまう。そこで、モデルケースとして、数部の担当部局がまとまってやることができれば、今回の市民会議の意見を組み込んだことになる。
- ・ 実践している市民と市との間にギャップがあるということがある。実践事例をきちんと市が見られる形ができてくるのが、市の行政計画がわれわれのイメージと合っていくプロセスになるのではないかと。
- ・ われわれ市民が事業を個別に評価するのは非常に難しい。また、今回の成果指標はほとんど意味がないと思う。それで、新まちづくり計画については、このような会議の中で市による自己点検評価をぜひやっていただきたい。